

令和4年度 社会福祉法人あぶくま福祉会

共同生活援助事業所グループホームスクラム事業報告

1. 概 要

利用者の人権を尊重し地域の中で生活していくための社会性の向上と自立性を高め、地域社会の一員として生活していけるよう支援し、地域福祉の向上の増進に努めてきた。

また、日中の就労又は就労継続支援等のサービスを利用している障がい者に対し、地域生活を営む住居において、日常生活上の相談、介護等のサービスを提供し、日常生活全般において支援を行ってきた。

2. 利用者の状況（令和5年3月31日現在） 定員7名 実人員男性6名（前年度6名）

市町村	男
伊達市	3名
桑折町	1名
福島市	1名
本宮市	1名
合 計	6名

年 齢	男
20歳代	2名
30歳代	1名
40歳代	1名
50歳代	
60歳代	2名
合 計	6名
平均年齢	42.5歳

3. 稼働日数および利用人数

年間開設日数365日 延べ利用人数1,868人 1日平均利用者数5.1人
（前年度 年間開設日数365日 延べ利用人数1,871人 1日平均利用者数5.1人）

4. 職員の状況

施設長1名 サービス管理責任者1名 生活支援員8名（兼務正職員1名、パート2名 シルバー5名） 世話人8名（兼務正職員1名、パート2名 シルバー5名） 夜勤者4名（パート2名、シルバー2名）

5. 支援報告

（1）生活支援の実施状況

地域に根差した福祉サービスの向上に努め、利用者の個々のニーズに応じた支援と利用者の考えを重んじた支援にあたった。共同生活の中で築くルールを守り、利用者同士協調した生活を営むよう指導した。地域社会の一員であることを常に自覚し、地元の町内会に所属し、町内行事に参加した社会的自立を目指した支援を行った。

（2）健康及び安全対策

利用者の健康を守るため、日々の手洗いうがいの励行、給食支援におけるバランスの取れた献立編成で、衛生面と食育栄養の観点から健康管理を行った。（新型

コロナ感染対策別掲)

グループホーム所在地は水害発生リスクが高い地域にあるため、水害に備え避難訓練を行った。そのほか火災、地震にも備え、毎月1回被害を想定し避難訓練を行った。東日本大震災の余震対策として、各部屋に懐中電灯を配備、停電時に備えている。

(3) 新型コロナウイルス感染症予防対策

毎日の検温、手洗い、うがい、消毒、マスク着用、外出自粛を働きかけ、新型コロナウイルス集団感染予防に努めた。食堂に空気清浄機を設置、そのほか衛生薬品・消耗品を購入し、利用者に提供し感染防止対策を行った。

(4) 施設管理

施設前旧倉庫に飛来するコウモリ、害虫対策のため、照明器具をLED管に付替えた。フロアの床面にへこみ部分補修を行った。

6. 職員研修

グループホーム職員として、また地域社会の一員としての自覚を持ち、地域福祉サービスの一翼を担う職員の意識を高めるため研修の機会を設けてきた。

(1) 人権擁護研修

利用者の人権を守るため、当施設職員を対象に人権擁護研修会を実施し、利用者への虐待防止、人権を守る重要性を研修した。(法人主催研修に参加)

(2) 各種福祉業務研修

職員の資質向上のため利用者への支援方法に関する内部研修を実施した。県知的障害者福祉協会主催オンラインによるグループホーム職員対象研修を受講した。

7. 公益的取り組み状況

地域住民との積極的な交流を図るため、塩野川町内会に加入し、地域の清掃活動、町内会行事に参加した。

8. 令和4年度の主な行事

月	行 事
4月	1日誕生会
6月	1日誕生会 5日塩野川町内会花壇植栽作業参加
8月	1日誕生会 26日県協会主催グループホーム職員研修会受講
12月	1日職員研修会 25日クリスマス食事会・誕生会
1月	1日お正月食事会
2月	6日4施設合同職員向け人権擁護研修
毎月	避難訓練(火災8回 地震2回 水害2回)
毎日	給食提供(朝食、夕食)、送迎車運行、部屋・浴室掃除、洗濯